

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪大学(吹田)実験研究棟(微研)	階数	地上4F
建設地	大阪府吹田市山田丘	構造	RC造
用途地域	第二集中高層住居専用地域	平均居住人員	12人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年6月 予定	評価の実施日	2018年3月12日
敷地面積	994,412 m ²	作成者	木村 孝一郎
建築面積	715 m ²	確認日	
延床面積	2,085 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 ・「安心感の見える化」: 施設が備えるべき堅実なバイオセキュリティを関係規格に基づいて実現し、人の不注意を構造的に排除する設計とする。 ・「円滑な運営」: 施設特性をふまえた省エネの推進と共に、メンテナンスと施設運営が独立共存出来る施設設計とする。		その他 0
Q1 室内環境 ・微生物を扱う施設として、室内の空気環境の管理の徹底を図る施設とする。 用途上、結露の抑制を重視した断熱材の徹底、開口部の制限を図る設計とした。	Q2 サービス性能 ・用途上、設備点検と実験室運用が相互に支障なく行えるよう、必要な階高と天井内点検床を設けた。 ・ドアハンドルにプッシュ・プル式のワンタッチ型ハンドルを採用し、使い勝手に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) ・既存植栽を生かした外構計画とした。 ・配置を現況に対して南側をセットバックさせ、周囲の風通し、採光性等に配慮した。
LR1 エネルギー ・外皮の開口部を最小限とし、外部の熱負荷を抑えた設計とした。 ・外皮断熱(吹付硬質ウレタンフォーム厚30)を徹底し、省エネルギーの図れる施設とした。	LR2 資源・マテリアル 砕石やアスファルト混合物にリサイクル資材を採用している。節水型の便器を採用している。	LR3 敷地外環境 ・(Q3の敷地内に同様ですが)配置を現況に対して南側をセットバックさせ、周囲の風通し、採光性等に配慮した。 ・敷地境界とは最短でも100m離れており、本建替計画が周囲に与える影響は限定的。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム 2017年版

大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H29-0157

Osakafu-新築・既存 2017V1.0

【建物概要】		建物名称	大阪大学(吹田)実験研究棟(微研)新営その他工事					
		建設地	大阪府吹田市山田丘1-1及び2-1					
		用途/区分	学校					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+		
	CO2削減					4		
	省エネ対策					3		
	みどり・ヒート アイランド対策					3		
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	
エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】								
省エネルギー対策		① CO2削減						
		② 省エネ対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.5	4	
② 省 エ ネ 対 策	外皮性能	CASBEE「Q1-2. 1. 2」 のスコアによる評価			建物全体	3.0	3	
	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				5.0		
	自然エネルギーの利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0		
	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				3.0		
	効率的運用	CASBEE「LR1-4」のスコアによる評価				3.0		
	水資源保護	CASBEE「LR2-1」のスコアによる評価				3.4		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
みどり ヒートアイランド対策		③ みどり・ヒートアイランド対策						
項目		評価内容				スコア	評価	
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				3.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				2.0		
その他								
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項								